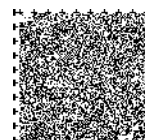


第2章 青梅市の食をめぐる 現状と課題



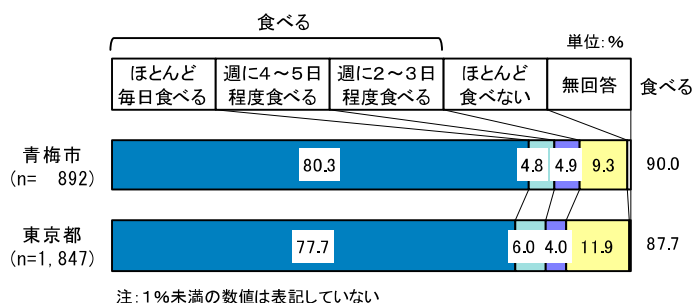
市民の食に対する現状を把握するにあたってアンケート調査を行いました。

調査対象	調査対象者数 (A)	調査方法	調査時期	有効回収数 (B)	回収率 (B/A)
市内に在住する 18歳から70歳 代の男女個人	2,000人	郵送配布・ 郵送回収	平成20年 12月	892人	44.6%

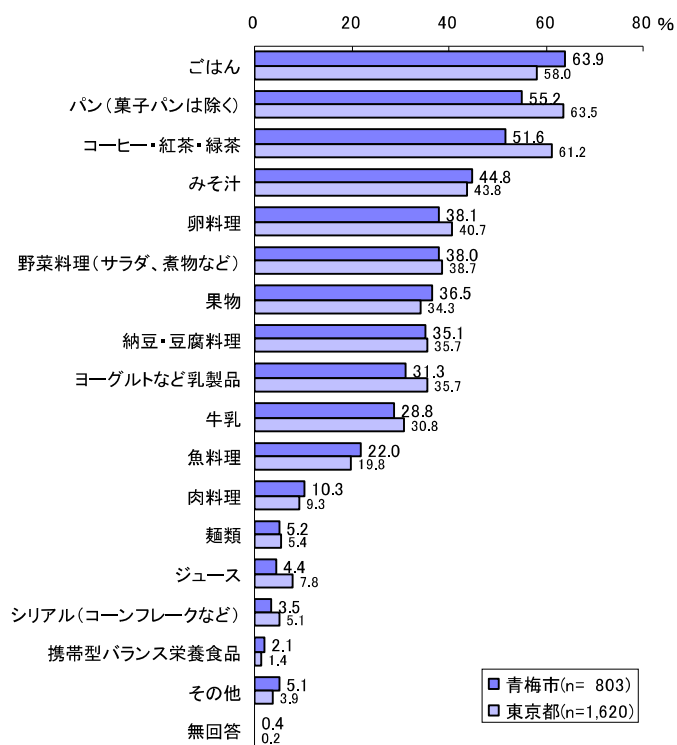
1 食生活と健康

① 欠食は少なく、朝食の内容も充実している

- 朝食は『食べる』が9割と東京都をやや上回りますが、男性や20歳代および50～54歳に「ほとんど食べない」がやや多くなっています。

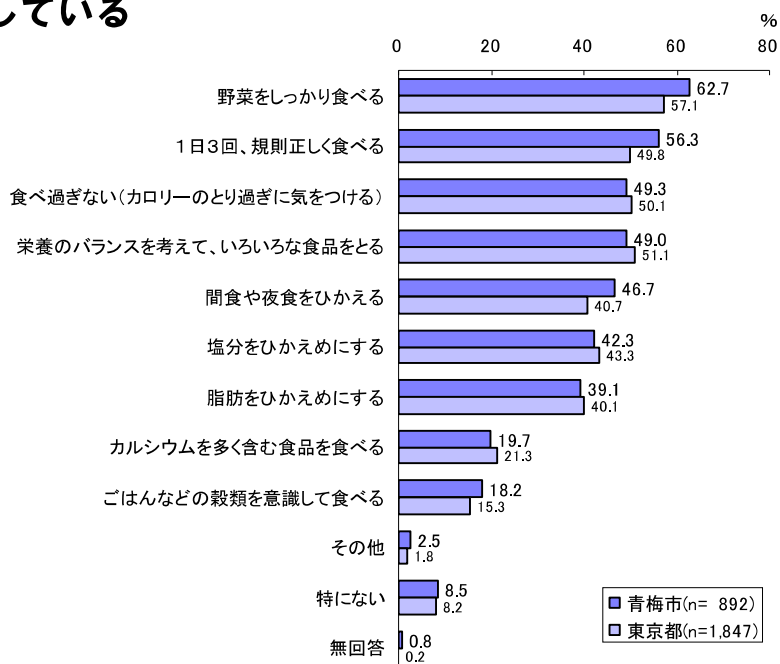


- 朝食の内容は最も多いのが「ごはん」であり、東京都を上回ります。また、よく食べるものは「ごはん、パン（菓子パン除く）・穀類」「野菜」「魚」「納豆・豆腐」「肉」などの順となっています。

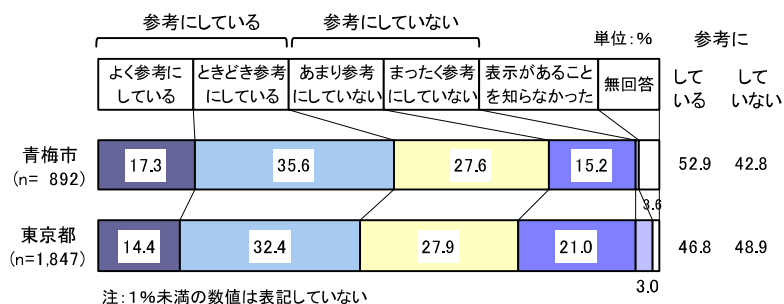


② 食を大切に・栄養にも注意している

- 食事で気をつけていることは、最も多いのが「野菜をしっかり食べる」次いで「1日3回、規則正しく食べる」であり、いずれも本市が東京都を上回ります。

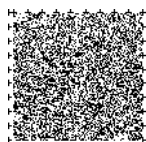
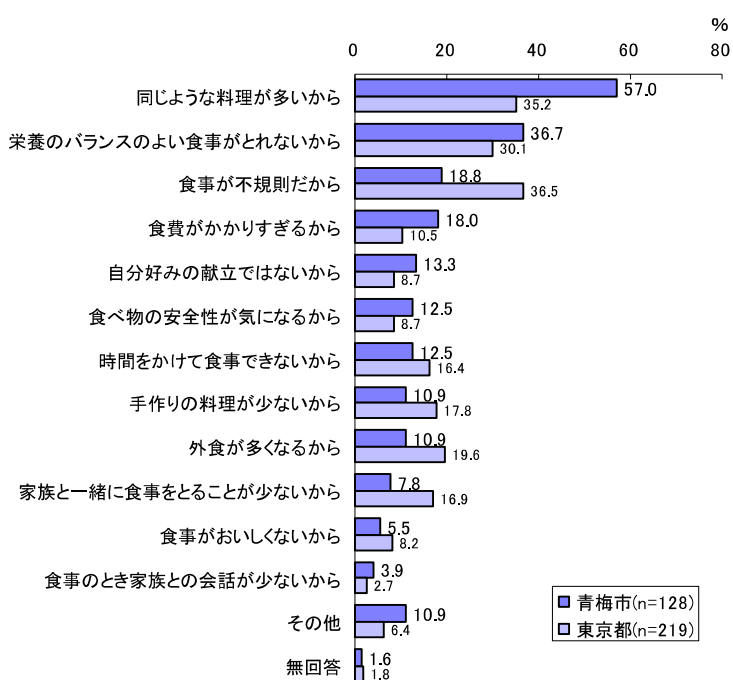


- 外食や食品購入時の栄養表示を『参考にしている』は5割を超え、東京都を上回ります。



③ 食生活のマンネリ化への対応

- 現在の食生活に不満の理由として最も多いのが「同じような料理が多いから」となっています。

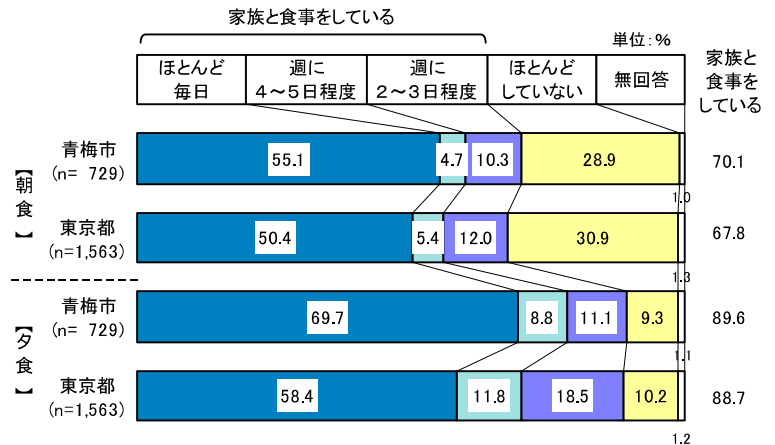


2

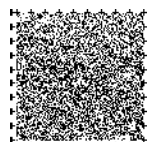
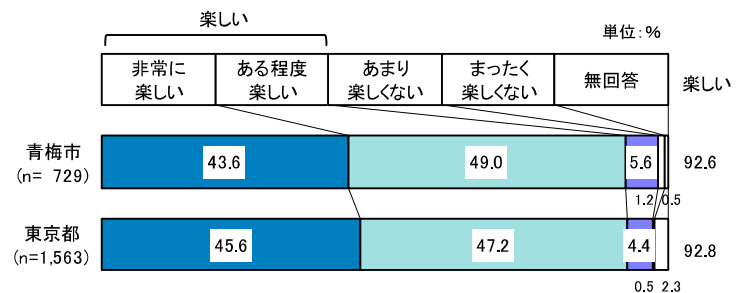
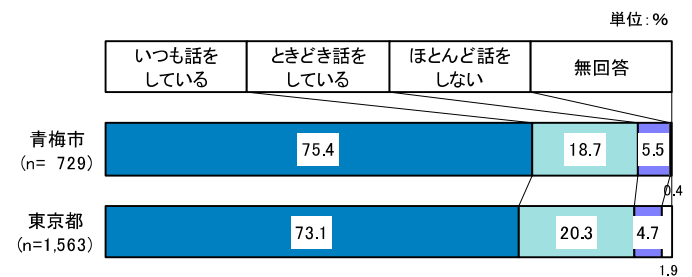
食を取り巻く環境

① 食を楽しんでいる

- 『家族で食事をしている』は朝食で7割、夕食で9割といずれも東京都を上回り、孤食はそれほど多くないと考えられます。

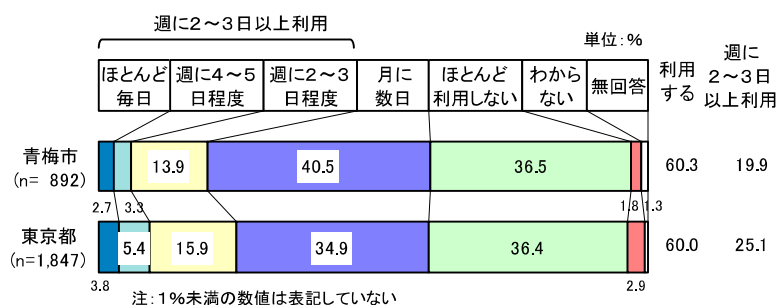
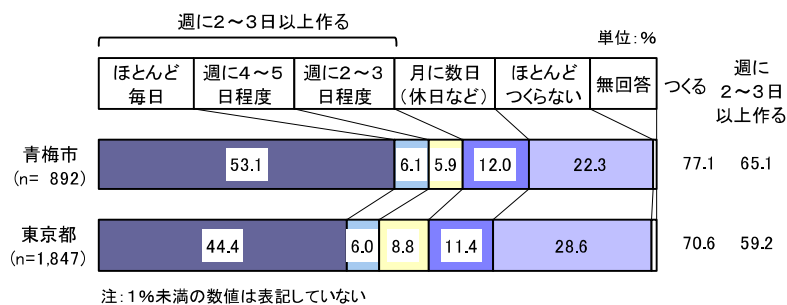


- 夕食の時の家族の会話は「いつも話をしている」は東京都をやや上回り、家族と一緒にの食事が『楽しい』は東京都とほぼ同じとなっています。

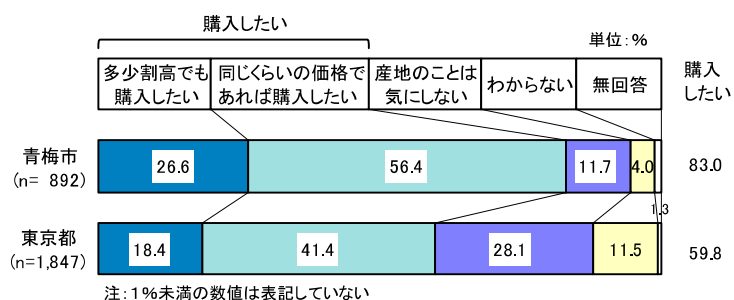


② 食にこだわる人が多い

- 自分で料理を作る頻度は「ほとんど毎日」が5割を超え、東京都を1割近く上回り、また、調理済み食品を『週に2～3日以上利用する』は東京都を下回る2割にとどまります。

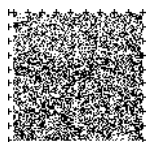
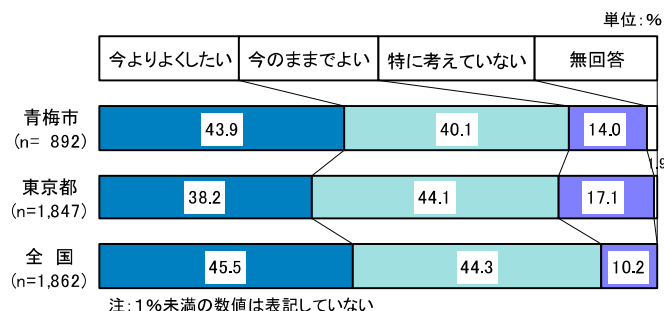


- 地元の産物を『購入したい』は8割を超え、食品を選ぶ時の基準として「産地」は5割の人があげています。



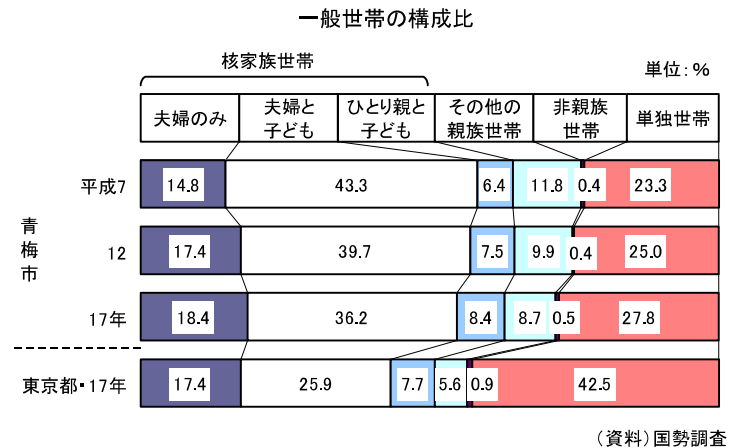
③ 食への関心は高い

- 今後の食生活について「今よりよくしたい」は東京都を上回り、また、食育の認知度についても8割と東京都を上回ります。

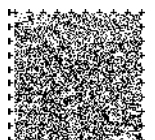
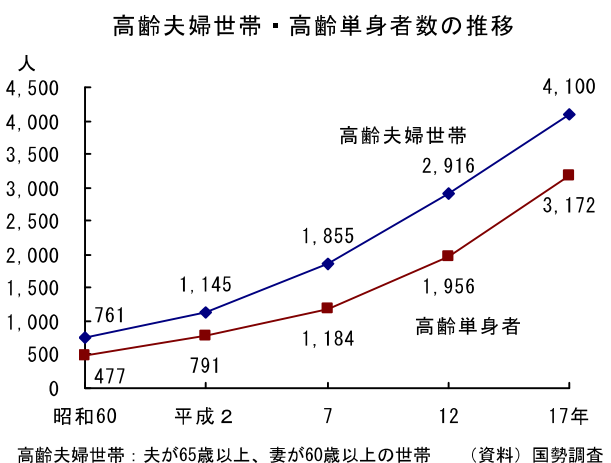


④ 家族構成において少子・高齢化が着実に進んでいる

- 世帯構成は、「夫婦と子ども」世帯が 36.2%と最も多く、東京都を大きく上回りますが、「その他の親族世帯（主に 3 世代同居）」と同様に次第に減少しつつあります。



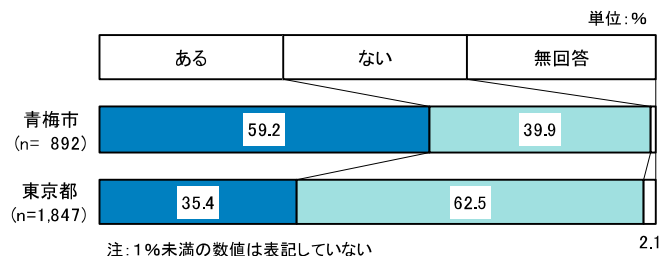
- 高齢夫婦世帯、高齢単身者は急激な増加を続けています。



3 食に関する情報

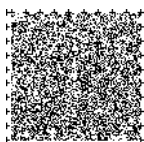
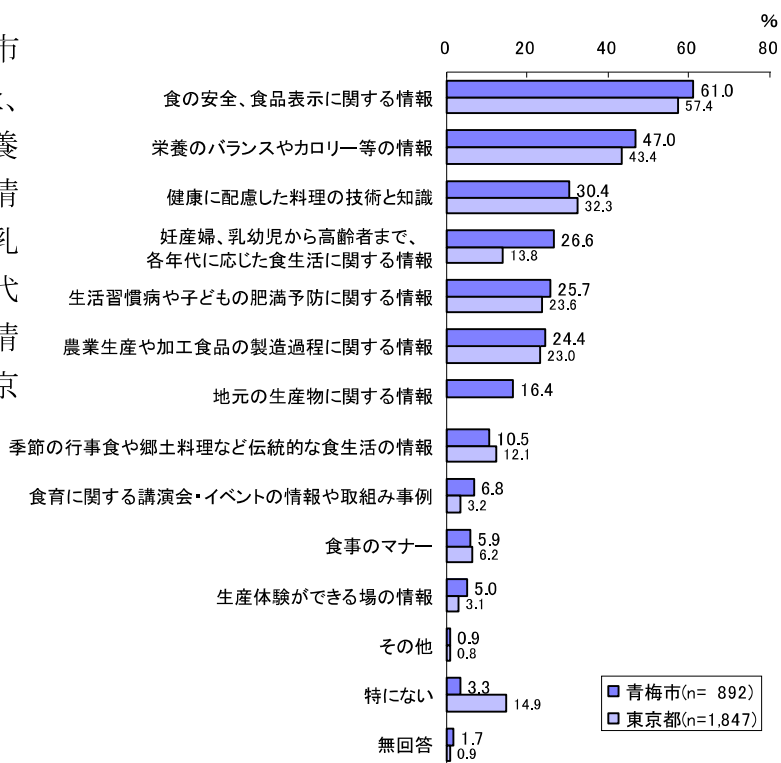
① 食事バランスガイドは活用する方法まで

- 食事バランスガイドを見たことが「ある」は6割と東京都の3.5割を大きく上回りますが、「参考にしている」となると本市2.5割、東京都3.5割となっています。



② 不足情報がある

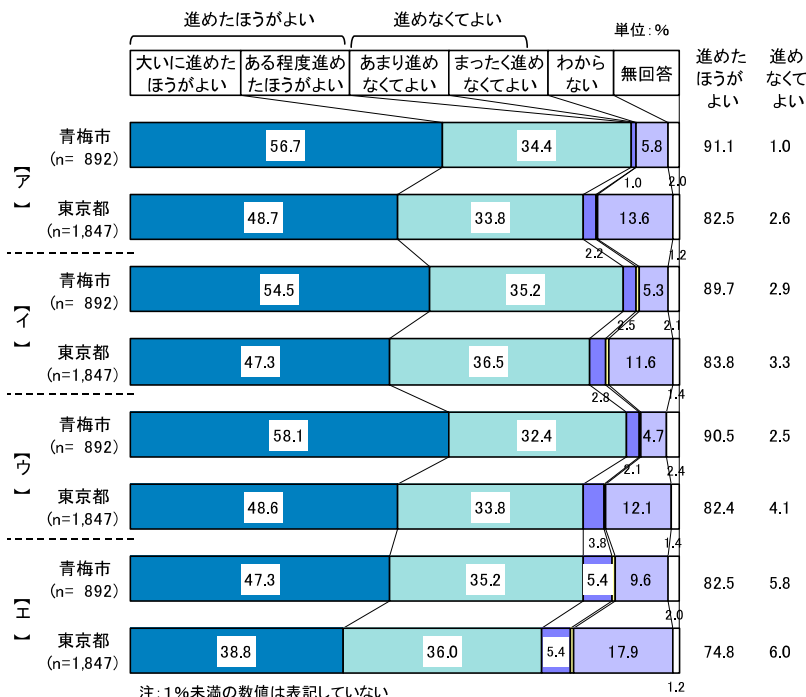
- ほしい情報で多いのは、本市および東京都とも「食の安全、食品表示に関する情報」「栄養のバランスやカロリー等の情報」などですが、「妊産婦、乳幼児から高齢者まで、各年代に応じた食生活に関する情報」については、本市が東京都を大きく上回ります。



4 学校等の食

① 学校等の食への期待は高い

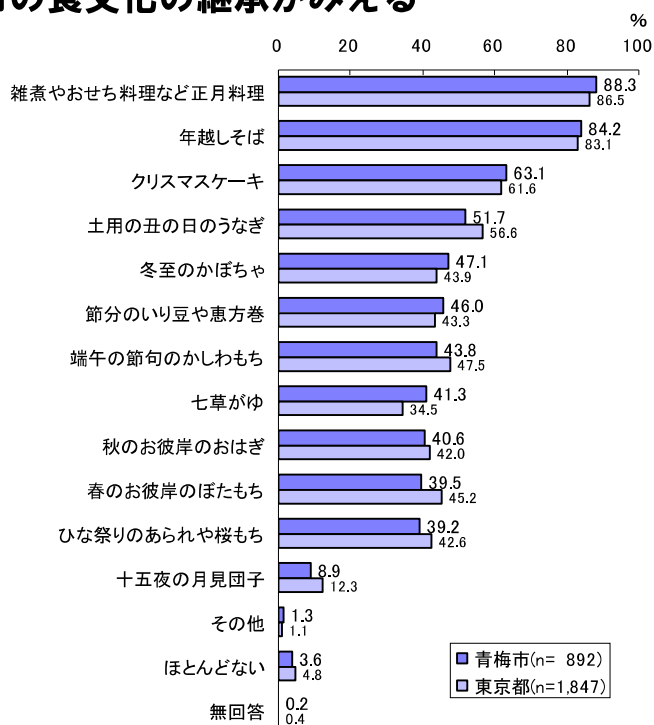
- 食に関する取り組み、「ア ごはん食を中心とした給食」「イ 調理実習の積極的な実施」「ウ 農作業体験の積極的な実施」、いずれも9割が『進めたほうがよい』としており、東京都を上回ります。特に「食べ残さないこと」は東京都を大きく上回ります。（「エ 地元食材や生産者との交流」）



5 食文化の継承

① 行事食を食べる習慣に、本市の食文化の継承がみえる

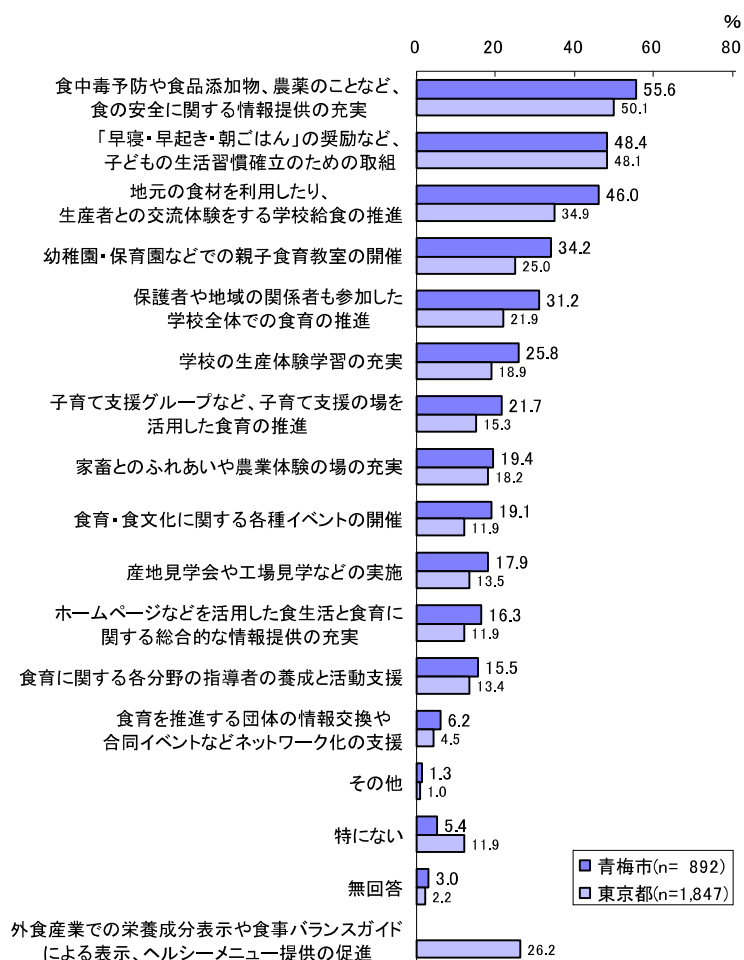
- 市民が行事食を食べる割合が高い。特に自宅で調理することが多い「七草がゆ」や「冬至のかぼちゃ」などは本市と東京都の差が比較的大きく、本市が上回ります。



6 食の体験

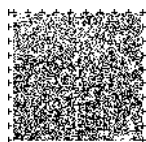
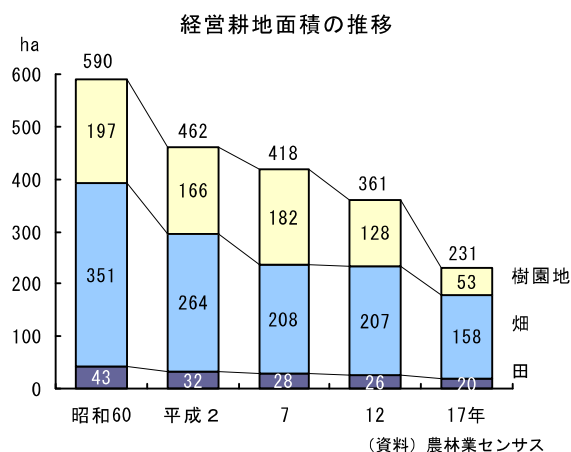
① 食の体験への高いニーズ

- 豊かな食生活に向けての取り組みとして「地元の食材を利用したり、生産者との交流体験をする学校給食の推進」、「幼稚園・保育園などでの親子食育教室の開催」「保護者や地域の関係者も参加した学校全体での食育の推進」は東京都を大きく上回ります。

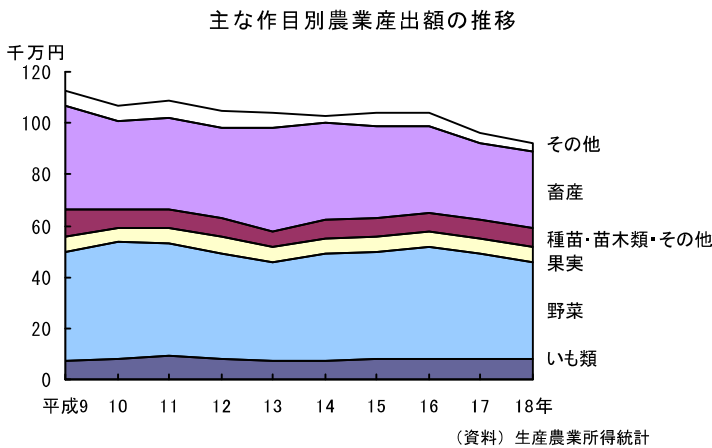


② 多種多様な作物生産

- 農地は、昭和 60 年以降、6 割の減少であり、なかでも樹園地は 7 割を超えます。



- 主な農業産出額は野菜、畜産ですが、野菜は多くの種類が生産されています。



果樹種類別作付（栽培）面積
単位：a（アール）

区分	作付面積
総数	2,338
りんご	5
ぶどう	23
日本なし	20
もも	1
その他のかんきつ類	77
かき	54
くり	568
うめ	1255
その他の果樹	335
（ブルーベリー）	（170）

（資料）2005年農林業センサス
注：ブルーベリーはその他の果樹の内数

農作物の種類別作付（栽培）面積
単位：a（アール）

区分	作付面積	区分	作付面積
水稻	482	キャベツ	307
陸稲	64	ほうれんそう	514
小麦	45	ねぎ	320
大麦・裸麦	36	たまねぎ	137
その他の雑穀	164	だいこん	481
ばれいしょ	544	にんじん	213
かんしょ	268	さといも	556
大豆	41	レタス	51
その他の豆類	82	ピーマン	61
（あずき）	（29）	すいか	31
茶	1,693	いちご	13
その他の工芸作物	50	その他の野菜	1,199
トマト	198	（こまつな）	（161）
きゅうり	322	花き類・花木	2,028
なす	2,874	種苗・苗木類	1,130
結球白菜	368	その他の作物	389

注：あずきはその他の豆類の内数
こまつなはその他の野菜の内数
（資料）2005年農林業センサス

- 環境保全型農業に取り組んでいる経営体数は、平成 17 年 198 戸、総農家に占める割合は 66.7%に達します。

